

学校図書館全体計画

教育課程の展開に寄与する

学校図書館

読書センターとして

学校図書館は、児童・生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心をはぐくむ自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能を果たす。

心安らぐ場であるとともに、INPUTの読書から、話し合いと欲求によるOUTPUTの読書活動（読書指導）を個々の読書レベルに応じてらせん状に行うことで、知的好奇心を醸成する学びの場を提供する。

学習センター・情報センターとして

学校図書館は、児童・生徒の自発的、主体的で多様な学習活動を支援するとともに、ICTの活用による情報の収集・選択・活用能力、表現能力を育成して「学習・情報センター」としての機能を果たす。支援として指導者に必要な資料を提供する。

求められる力（言語能力、情報活用能力、課題設定・解決能力）を育成するため、多様な文章を正しく読み解く読解力の基礎となるメディアミックス・バランスのとれたコレクションを形成して協働的な学びの場を提供する。

学校教育目標

ふるさとを愛し、こころ豊かに学びあう子どもの育成

目指すこどもの姿

- ・学び方を身につけ、学びを楽しむ子
- ・仲間とのつながりの中で自分の良さを発見し自信を持って行動する子
- ・自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決を目指す子
- ・多様性を受入、自他の生命を尊重して自らよりよく生きようとする子
- ・地域を愛すると共に、グローバルに生きる力を身につけようとする子

図書館教育によってめざすこどもの姿

- 自己肯定感、知る楽しみを持って読書活動を楽しめる子
- 読書活動を通して「価値」の構築ができる子
- 自らの課題を解決するための図書館資料（メディアミックス）等を収集・選択し活用（表現）することや、図書館の「場」を活用できる子
- 同学年、異学年による協働学習に建設的態度で参加できる子

図書館教育の目標

- 主体的にメディアを活用し、質の良い読書活動で豊かな心を培う。
- 多様な学び方と選択の自由を保障しながら、協働的に課題に向きあう生涯学習につながる「学び」の基礎を作る。
- 言語能力・情報活用能力・課題解決力の育成を支える場として図書館を活用する。

学校図書館の評価

PDCAサイクルとして評価する

- ・図書館の利用による読書活動の成果を指導者にフィードバックする。
- ・必要図書と要求図書のバランスとその効果を検証する。
- ・INPUTからOUTPUTの読書による成果物を活用する。
- ・児童・生徒のOUTCOMEを高める。
- ・多様な「場」を提供する。
- ・司書教諭、学校司書の教育的支援を充実させる。

司書教諭の役割

- ・全体計画、運営計画、指導計画を作成
- ・図書室での読書活動の指導（読み語り、ブックトーク、アニメーションストーリーテリング、レファレンス、読書記録の指導、ICTを活用した指導等）
- ・教室での学習活動を支援する資料提供（パスファインダー、図書の提供等）
- ・学校司書との連携（教育的支援）

家庭・地域との連携

- ・図書館情報の公開
- ・「図書便り」、図書館の開放など
- ・家読（うちどく）の推進
- ・地域資料のファイリング
- ・公立図書館、地域開放図書館、公民館（CLC）との連携

各学年の重点目標

	1st stage	2nd stage	3rd stage
学び方指導	興味や関心を持ったことなどの課題を自ら設定し、進んで学校図書館を利用して事典や図鑑、パスファインダーなどから情報を得て分かったことなどをまとめてわかりやすく説明することができる。 比較を交えて共感や考え、自分にとっての価値を発表できる。	課題を設定し、それを追究するために積極的に学校図書館を利用して、複数の本や新聞、パスファインダー、レファレンス等を活用して調べたりまとめて報告したりすることができる。 情報に対しての批判や共感の根拠を資料から挙げて発表できる。	自ら課題を設定し、それを追究するために計画的に学校図書館を利用し、パスファインダーやレファレンスから多様な情報を得て考えたことを報告したり資料にまとめたりすることができる。 利活用を通して、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考え主体的に学習することができる。
読書指導	シリーズや同じ作者の本、同じテーマでちがうに興味を持ち、展開や人物の行動の変化を楽しんで進んで読書することができる。 自分の経験、他者の感想などと比べて「動機・魅力・価値」の構成で感想をまとめることができる。	適切な読み物を選び、読書を通して心情を豊かにしたり、考えを深めたりすることができる。 作者の伝えたいことや物語からのメッセージについて解釈し、交流によってさらに読み深めることができる。「動機・魅力・評価」の構成で感想をまとめることができる。	現代文、古典、随筆、物語など様々な文章を読んで、自分の表現に役立てた創作活動に発展させることができる。 主題や作者などをテーマにしたブックトークを行うことができる。

情報・メディアを活用する学び方の指導体系	学習と情報とメディア	学習に役立つメディアの利用	情報の活用の仕方	学習結果のまとめ方と情報発信
1	○学習計画の立て方を知る ○利用法を知る（NDC・配架の仕組み） ○情報・メディアの活用法を知る（情報リテラシー・端末の操作）	○学校図書館を利用する ○課題に応じてメディアを利用する（図鑑、事典、新聞、印刷メディア、電子メディア等図書資料）	○情報を集める（人的情報資源、パスファインダーの活用、資料リストの作成） ○情報の取り方、抜き出し方、使用上の留意点を知る（画像、メモのまとめ方、著作権）	○学習したことを相手や目的に応じてまとめ、発表する（口頭、紙芝居、クイズ、発表会、新聞、展示など） ○より効果的に伝えるためにICT機器を活用する（画像提示、プレゼン）
2	○課題をつかむ・学習計画を立てる ○情報・メディアの活用法を知る（情報リテラシー・多様な文化施設の利用）	○学校図書館、他の施設を利用する ○目的に応じて複数メディアを効果的に利用する	○情報を比較し、評価する（レファレンスサービスの活用） ○利用上の留意点を知る（情報源の記録）	○学習の過程と結果を評価する（相互評価、自己評価） ○学習したことを相手や目的に応じてまとめ、目的に応じた方法で発表する（新聞、発表会、端末の活用など）
3	○課題を設定する ○課題解決のための情報・メディアの活用法を検討する	○効果的に学校図書館を利用し、他の施設も利用する ○メディアの特質を生かして活用する	○複数の情報を記録、分析評価する（レファレンスサービス、レファラルサービスの活用） ○情報の扱い方を知る（引用、出典、情報モラル）	○学習の過程と結果を評価する（相互評価、自己評価） ○学習の成果を相手や目的に応じてまとめ、目的に応じた方法で発表する（新聞、発表会、端末の活用など）

具体的な取り組み

	特別の教科道徳	特別活動	総合的な学習の時間
○ 図書館機能を活用し、課題解決学習・調べ学習・個別指導やグループ学習など様々な形式の「学びの場」として活用する。 ○ 情報活用能力を育成する。 ○ 学びの個性化をふまえた読書指導を行い、進んで読書する態度を養う。 ○ 話し合いと欲求によるらせん状の学びの積み重ねができる授業を構成する。	○ 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で自分の考えを深め、道徳的信条を養う。 ○ 物語の空白部分を想像すること、自分以外の価値や価値判断について理解する。	○ 学級活動を通して、学校図書館の利用の仕方や情報の適切な活用の仕方を身につける。 ○ 読書月間等に積極的に参加し、目的に応じた読書の態度を身につける。 ○ 図書委員会を中心に自発的・自治的に図書館を運営し、読書活動の推進を展開する。	○ 図書や資料、新聞パンフレット等を各学年の学習内容に合わせて活用する。 ○ 課題の探求、解決に向けて、多様な方法で取り組むことで情報を収集、選択、活用する能力を育成する。 ○ 図書の学習時間に、情報活用能力を育成する学習を系統的に実践し、学び方を培う。 ○ キャリア教育に活用する。

関連資料

- 小学校学習指導要領
- 学校図書館法
- 学校図書館ガイドライン
- 学校図書館メディア基準
- 第6次学校図書館整備等5か年計画
- 子どもの読書活動の推進に関する法律（第5次推進計画）

読書指導の推進

学校図書館の環境・コレクションの整備・「場」の形成

「知」「情報」の蓄積
メディアミックスでの活用